

労働図書館新着情報

今月の10冊

<p>①山口一男他編著『論争 日本のワーク・ライフ・バランス』日本経済新聞出版社(323頁,B6判) 本書は、経済産業研究所主催シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画」の結果を編集したものである。家庭と職場のあり方、少子化対策等4つのテーマに関して8人の論者が報告し、議論を聞かせている。編者の適切なまとめにより、会場との質疑応答も含めシンポジウム全体が1つの作品となっている。</p>	<p>⑥川口章著『ジェンダー経済格差』勁草書房(vii+282頁,A5判) ジェンダー経済格差の原因は、性差と社会規範に求められるが、本書は、①ゲーム理論によるジェンダー経済格差の分析、②日本の雇用制度と家庭内性別分業の相互依存関係の解明、③我が国でワーク・ライフ・バランスが実現可能な政策の議論、等を目的としているが、達成度いかに、専門家の判断に任せるしかない。</p>
<p>②五十嵐仁著『労働政策』日本経済評論社(xiv+349頁,B6判) 20年間「日本労働年鑑」を編集してきた著者によれば、労働者に厳しい社会経済情勢の中でも、人も会社も壊れないようにするための労働政策があるという。人類の生存と持続的発展を可能にする社会の実現のため労働政策とともに、経営倫理の確立と労働組合活動に期待するだけでなく「特上国」日本を追求している。</p>	<p>⑦下山昭夫著『少子高齢社会の福祉・介護サービス職』学文社(v+217頁,A5判) 本書は、介護保険制度施行後の要介護高齢者に対するサービスの担い手である「福祉・介護サービス職」の労働実態、就労意識、労働市場動向等を考察するとともに、介護保険施設や居宅介護サービス事業所の経営も分析している。老後を託すにたる福祉・介護労働者の確保・定着が望まれているが、著者の危機感強い。</p>
<p>③篠原收著『男女共同参画社会を超えて』新水社(181頁,A5判) 本書は、企業のダイバーシティ(多様性)への取組状況と外国人労働者の受入状況を分析することにより、多様性の現状と課題を考察している。多様性が受容、尊重される社会が確立される方法を模索、性や国籍等ではなく個人の能力等によって評価される社会の到来を望み、外国人共生基本法の早期制定に期待を寄せている。</p>	<p>⑧金沢夏樹他編『雇用と農業経営』農林統計協会(vii+274頁,A5判) 農業における雇用の歴史は中世まで遡ることができるのだが、現在の農業・農村における激しい人口減少、高齢化の進展等の影響はどのようなものであるのか。農業におけるボランティア労働、外国人研修・技能実習制度等の新たな動きを紹介するとともに、海外事例を参考に、雇用確保、人材育成の方策を模索している。</p>
<p>④大津和夫著『置き去り社会の孤独』日本評論社(242頁,B6判) 我々は「つながり」の中で生かされているとみる著者は、「つながり」をもてないネットカフェ難民、年長フリーター等は社会から置き去りにされていると言う。本書は置き去り社会の実態、発生理由、欧州の取組みの検証により、置き去りにされる人々への共感を基に、置き去りのない国のための提言を行っている。</p>	<p>⑨鈴木幸毅他編著『企業社会責任の研究』中央経済社(4+4+198頁,A5判) 環境問題の深刻化、企業不祥事の多発等、企業と社会との共生が危機に陥っているが、本書は、企業統治、労働、人権、等の企業社会責任(CSR)の主要領域を、13人の研究者が理論的・実証的・歴史的に検討している。百花繚乱的な構成であるが、企業の置かれている社会的状況の厳しさを映し出しているのであろう。</p>
<p>⑤上野千鶴子他編『ケアという思想』岩波書店(x+246頁,A5判) 介護保険法施行により高齢者ケアの世界は一変したが、その後8年を経て、制度や運用上の問題も浮き彫りになってきた。本書は「ケア、その思想と実践」双書全6巻の第1巻である。双書自体は、サービス利用者、ワーカー等各側面からケアをめぐる理論と実践を紹介しているが、本書は、思想的側面が焦点となっている。</p>	<p>⑩篠塚英子他編著『少子化とエコノミー』作品社(265頁,A5判) お茶の水女子大学に設置されたCOEプログラムの成果「ジェンダー研究のフロンティア」双書の第3巻の本書は、日本社会のジェンダー問題、特に少子化や就業、婚姻等多様な問題を同じ儒教文化圏の中国・韓国との比較を通して解明しようとしている。中国・韓国のパネル調査に基づき分析されているのが強みである。</p>

主な受け入れ図書

(2008年7月に労働図書館が収蔵した主な図書)

①小川浩他著『アップルとグーグル』インプレスR&D(239頁,B6判)	⑩唐鎌直義編『生活保護』旬報社(103頁,A5判)
②ラニー・エーベンシュタイン著『最強の経済学者ミルトン・フリードマン』日経BP社(359頁,B6判)	⑪東京管理職ユニオン監修『偽装管理職』ポプラ社(207頁,B6判)
③白石嘉治他編『ネオリベ現代生活批判序説』新評論(318頁,B6判)	⑫綾目広治他編『経済・労働・格差』冬至書房(v+259頁,B6判)
④石河康国著『労働派マルクス主義(上)』社会評論社(405+8頁,A5判)	⑬日本労使関係研究会他編『多様な雇用形態をめぐる法的諸問題』日本労使関係研究会(304頁,A4判)
⑤ロイド・ガードナー他編著『アメリカ帝国とは何か』ミネルヴァ書房(vii+362+4頁,A5判)	⑭週刊SPA!編集部編『天職への階段』扶桑社(271頁,B6判)
⑥今井弘道編『発展する東アジアと法学の課題』成文堂(10+326頁,A5判)	⑮日本ILO協会他編『雇用平等法制の比較法的研究』日本ILO協会(304頁,A4判)
⑦大塚勇一郎他編著『経済学における数量分析』産業統計研究社(vii+164頁,B5判)	⑯家村啓三他著『パートの賃金(賃金の確保)』社労think(150頁,B6判)
⑧マッテオ・モッテリニ二著『経済は感情で動く』紀伊国屋書店(316頁,B6判)	⑰山川隆一著『労働契約法入門』日本経済新聞出版社(219頁,B6判)
⑨脇田成著『日本経済のバースベクティブ』有斐閣(ix+254頁,A5判)	⑱竹田誠著『王子製紙争議(1957~60)』世界出版(v+246頁,A5判)
⑩藤村幸義著『老いはじめた中国』アスキー(229頁,新書判)	⑲連合通信編集部編『労働組合とNPO』連合通信社(64頁,A5判)
⑪中尾武彦著『アメリカの経済政策』中央公論新社(viii+249頁,新書判)	⑳村田毅之著『日本における労使紛争処理制度の現状』晃洋書房(vii+219頁,A5判)
⑫今井正幸他著『市場経済下の苦悩と希望』彩流社(iii+280頁,B6判)	㉑学習院大学経済経営研究所編『経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス』第一法規(viii+267頁,B5判)
⑬今井賢一著『創造的破壊とは何か』東洋経済新報社(viii+270頁,A5判)	㉒富樫利一著『血価の証言』彩流社(318頁,B6判)
⑭斎藤智文著『働きがいのある会社』労務行政(335頁,A5判)	㉓アントニオ・ネグリー他著『ディオニソスの労働』人文書院(465頁,A5判)
⑮中小企業総合研究機構編『ベンチャー企業創業時に調べる調査研究』中小企業総合研究機構(iv+204頁,A4判)	㉔大庭健著『いま、働くということ』筑摩書房(265頁,新書判)
⑯エイドリマン・J.スライウツキー著『大逆転の経営』日本経済新聞出版社(401頁,B6判)	㉕戒能民江編著『国家／ファミリーの再構築』作品社(281頁,A5判)
⑰末吉孝生著『新規事業の立ち上げ方』日本能率協会マネジメントセンター(205頁,A5判)	㉖大正大学社会福祉学会記念誌編集委員会編『しなやかに、凛として』中央法規出版(341頁,A5判)
⑱シンシア・シャピロ著『外資系キャリアの出世術』東洋経済新報社(319頁,B6判)	㉗堀内真由美著『大英帝国の女教師』白澤社(253頁,B6判)
⑲藤村博之他著『ものづくり中小企業の人材確保戦略』雇用開発センター(iii+201頁,A5判)	㉘横田雅弘研究代表『年間を通した外国人学生受入れの実態調査』一橋大学留学センター(123頁,A4判)
⑳平井謙一著『人事評価者の心構えと留意点』生産性出版(181頁,A5判)	㉙馬淵浩一著『技術革新はどう行われてきたか』日外アソシエーツ(254頁,A5判)

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書103,000冊、洋書26,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659

利用資格：どなたでも自由に利用できます

貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています